

女性医師・研究者支援部門

Division of Women Health Care Professionals and Researchers Support

2017 Spring

Annual Report

アニュアルレポート



東京女子医科大学 女性医療人キャリア形成センター
TWMU Career Development Center for Medical Professionals

女性医師・研究者支援部門

Division of Women Health Care Professionals and Researchers Support

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1
TEL:03-3353-8112(内線:41382) FAX:03-3353-6793
E-mail:w-support.bm@twmu.ac.jp <http://www.twmu.ac.jp/w-support/>



女性医師の診療継続および女性研究者の研究活動を支援し、子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立しつつ、キャリア形成を継続できる環境を整備します。

東京女子医科大学 女性医療人キャリア形成センター長

女性医師は近年増加し、平成12年以降の医師国家試験合格者では女性の割合が常に3割を超え、平成29年の合格者も34.5%でありました。医師全体での女性医師の割合は2割に達しておりますが、指導的地位に立つ女性医師(研究者・教員・管理職・医師会役員、学会役員、国・自治体委員等)は極めて少なく、女性医師、研究者のキャリアパスはいまだに未熟な状態です。そのような現状を受けて、女性医師の特性にふさわしい医学教育—初期・後期臨床研修—生涯教育にわたる包括的かつ体系的な教育プログラムを構築し、指導的地位に立つ女性医師を育成することは極めて重要であります。

東京女子医科大学では平成18年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」を経て、平成21年に法人直轄の部門として、『男女共同参画推進局』を設立し、多くの事業を進めてまいりました。今般、女性医師・看護師の勤務継続に対する支援、セーフティネットを提供するだけでなく、医療人としてのキャリア形成とその促進、リーダーシップの育成を通じて、リーダーとしてよりよい社会をつくるために活動する女性医療人を育成することを目的として、これまでのステージからさらに一段上のステージを目指していくことを明確にするために、平成29年1月より『女性医療人キャリア形成センター』に名称変更いたしました。

センターには「女性医師・研究者支援部門」、「女性医師再研修部門」、「看護職キャリア開発支援部門」、「彌生塾」、「働き方の多様性を考える委員会」の従来の5つのプロジェクト部門に加え、「ダイバーシティ環境整備事業推進室」を設置しました。本学は文部科学省平成28年度科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)に採択されました。「ダイバーシティ環境整備事業推進室」は本事業を円滑に実現していくために、女性医療人キャリア形成センター傘下の5つのプロジェクト部門と有機的に連携して多面的に活動していく組織です。

女性医師・研究者支援部門は、女性医師の診療継続および女性医学研究者の研究活動を支援するため、子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立しつつ、キャリア形成を継続出来る環境を整備しております。女子医大ファミリーサポート事業も順調に定着し、現在は東京医科大学と共同して運営するなど、活動の輪を広げております。

東京女子医科大学は、自立した女性医療専門職の育成という建学の精神のもと、最良の医療を実践する知識・技能を修め、高い人格を陶冶した医療者および研究者を育成し、将来の医療に貢献することを目指しております。平成27年に女性活躍推進法が制定され、さらなる成果が求められており、今後もより一層、活動を推進してまいります。皆様のご理解、ご協力のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。



肥塚直美

東京女子医科大学 女性医師・研究者支援部門長

東京女子医科大学では、「高い知識・技能と病者を癒す心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立した社会に貢献する女性を輩出すること」を建学の精神としています。女性医師・研究者は、出産や育児などのライフイベントとキャリア形成に必要な時期が重なるため、その時期の適切な支援が必要です。女性医師・研究者支援部門では、子育て支援、勤務環境の改善、生涯教育・研究への支援を行い、様々な状況において困難に直面する女性医師への診療の継続や研究の遂行を可能とするシステムを構築してきました。

子育て支援では、院内保育、病児保育、ファミリーサポート事業の支援を行っております。「女子医大・東京医大ファミリーサポート」、また、サポーター対象の「子育て支援セミナー」を実施し、きめ細やかな支援が可能となっています。勤務環境の改善は、短時間勤務制を診療現場に導入し、「宮原敏基金・女性臨床医師支援」により、女性臨床系教員のキャリア形成支援を行っております。生涯教育・研究支援は、「女性医師研究者支援事業基金」と「佐竹高子女性医学研究者奨励金」により、フレックス制短時間勤務特任助教としての研究を支援しています。

これらの事業は、たくさんの皆様のご支援のもとに成り立っております。本学生父母会、至誠会会員、教職員、また、女性医療人キャリア形成センター、人事課、学務部、院内保育所、ファミリーサポートの皆様へ厚く感謝申し上げます。今後も、皆様からのなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



臨床検査科
教授 佐藤 麻子

ごあいさつ

女性医師・研究者支援部門 副部門長

本部門は、昨年度、センターから部門に名称が変わりましたが、これまで同様に女性医師や研究者の支援を行っています。主に30～40歳代の支援が中心ですが、それは仕事の専門性が高まると共に大きなプライベートイベントも増えるこの時期を何とか乗り越えて次のステップに進んでもらいたいということが、部門の原点にあるからです。これまで、他大学・他施設に先じて保育支援や短時間勤務制度を導入し、仕事と生活を両立しやすい環境を提供してまいりました。保育支援としては、夜間・休日をカバーし病児保育を備えた院内保育所や女子医大・東京医大ファミリーサポートセンターがあり、短時間勤務制度は、男女を問わず、育児に限らず介護にも利用でき、医療修士研修生にも適応することで、たくさんの方に利用されています。

さらに、本部門は真のGender Equalを目指しています。つまり、より多くの女性がキャリア形成のチャンスを得ること、技術・知識・業績の正しい評価を受けること、社会的地位を得て指導者として活躍することを目標としています。そのために、優れた女性研究者や臨床系指導者の育成としてテニュアトラック教職員の支援も行っており、その内容としては、ポジションの確保や研究費・給与等の経済的支援に加えて研究指導やメンタリングなど多岐に渡ります。また、広くキャリア教育として、講演会、シンポジウム、ワークショップなどを企画し実施しています。

このように、本学の女性医師・研究者支援部門は、仕事と生活を両立しながらキャリアを形成していくための女性医師・研究者支援を多角的に行い、多くの女性を支えてまいりました。これからも諸先輩方が築きあげた伝統を守りつつ、時代のニーズには柔軟に対応し、より多くの優秀な女性を育成していきたいと思っております。今後とも、皆さまの温かいご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



総合研究所
准教授 竹宮 孝子

女性医師・研究者支援部門 副部門長

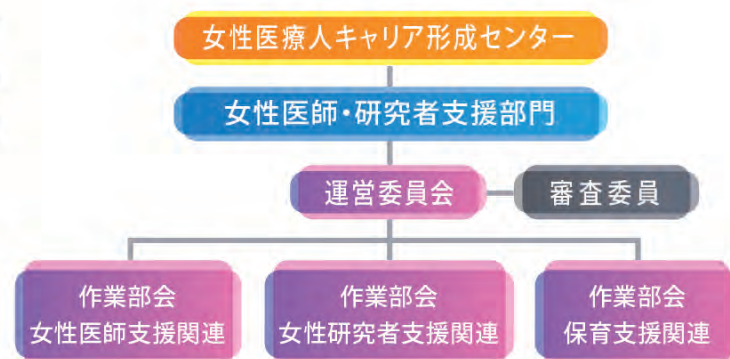
本学は平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」に採択されました。本補助事業は、研究者のライフイベント及びワークライフ・バランスに配慮した研究環境の改善やそれに向けた機関内の意識改革、女性研究者の裾野の拡大、女性研究者の研究力の向上及び上位職への積極登用に有効な部局横断的な取組などを行う大学等を支援するものです。本学では本補助事業の採択を受け、実績をあげてきた従来の取組に、さらに多様な視点と発想を取り入れた様々な取組を開始しました。

現在保育については院内保育所による、待機児、夜間、休日、病児の対応を行うほか、ファミリーサポートによるきめ細かい支援を行っています。短時間勤務制度も育児期のみでなく、キャリア形成のための制度を創設し成果を上げています。そこで今後は、キャリア形成のために必要な時間と機会を確保するための勤務環境改善、介護支援制度の創設等、女性医師・研究者のさらなる飛躍を実現する支援を実施して参ります。女性医師・研究者支援部門は日々努力をしております。今後ともご理解ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



衛生学公衆衛生学(一)
講師 野原 理子

多くの指導的立場となる優れた女性医師・研究者を育成し、価値ある業績を積み重ね、将来の日本の医療に貢献することを目指して、「女性医師・研究者支援部門」を設立いたしました。子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立し、キャリア形成を継続できる環境を整備します。



女性医療人キャリア形成センター

センター長	肥塚 直美	理事会	理事
副センター長	斎藤 加代子	遺伝子医療センター	特任教授

女性医師・研究者支援部門

部門長	佐藤 麻子	臨床検査科	教授
副部門長	竹宮 孝子	総合研究所	准教授
副部門長	野原 理子	衛生学公衆衛生学(一)	講師

運営委員一覧

作業部会 女性医師支援関連	村崎 かがり	医学教育学	特任准教授
	永田 智	小児科	教授・講座主任
	小川 哲也	東医療センター 内科	准教授
	新井田 達雄	八千代医療センター消化器外科	教授
	片井 みゆき	総合診療科・(仮称)女性科	准教授
作業部会 女性研究者支援関連	内田 啓子	学生健康管理室	教授
	竹宮 孝子	総合研究所	准教授
	三谷 昌平	生理学(第二)	教授・講座主任
	岡田 みどり	化学	教授
作業部会 保育支援関連	宮田 麻理子	生理学(第一)	教授・講座主任
	野原 理子	衛生学公衆衛生学(一)	講師
	永田 智	小児科	教授・講座主任
	小川 哲也	東医療センター 内科	准教授
	小谷 浩平	経営統括部人事課	課長補佐

部門の事業

女性医師の診療継続および女性研究者の研究活動を支援する事業を行います。

- **キャリア形成支援事業** …… 女性医師・研究者の育成支援
- **勤務体制検討事業** …… 勤務体制、勤務環境の検討と整備
- **保育支援事業** …… 院内保育所の充実、ファミリーサポートの運営支援
- **他大学との連携事業** …… 学内外の女性医師・研究者同士の情報交換の場の構成
- **社会への啓発事業** …… 事業内容の広報

女性臨床系教員のためのテニユアトラック 宮原敏基金による「女性臨床医師支援」

故・宮原敏氏(本学昭和7年卒業)の遺贈により設立された基金をもとに女性臨床系教員が診療上の特殊技能取得などキャリア形成を図るために設けられた短時間勤務制度です。准講師以上あるいは卒後10年以上の東京女子医科大学の将来を担う優れた臨床実績を有するか、あるいは臨床能力・技能の優れた女性臨床系教員を対象に1年間の支援を行います。短時間での勤務を継続しながら、自身が定めた目標のための時間が確保できるため、充実した環境の中でさらなるキャリアと向き合い・取り組んでいける支援となっています。

優れた女性医学研究者への研究奨励 佐竹高子女性医学研究者研究奨励金による「女性医学研究者支援」

故・佐竹高子氏(本学昭和8年卒業)の遺贈により設立された基金から女性医学研究者研究奨励金として優れた女性医学研究者が研究と育児を両立できるよう設けられた短時間勤務制度です。必ずしも育児に限らず、介護等の事情も考慮されます。期間は1年ですが、女性医師研究者支援事業基金による「女性医学研究者支援」とあわせ、再応募により最大3年間の支援を受けることができます。出産・子育てといったライフイベントをむかえながら、医師としてのキャリアを継続できる支援です。

女性医師研究者支援事業基金による「女性医学研究者支援」

当センターの活動にご理解・ご賛同をくださった方々からのご寄付によって成り立っている基金であり、佐竹高子女性医学研究者研究奨励金と同様に優れた女性医学研究者が研究と育児を両立できるよう設けられた短時間勤務制度です。必ずしも育児に限らず、介護等の事情も考慮されます。期間は1年ですが、再応募により最大で3年間の支援を受けることができます。出産・子育てといったライフイベントをむかえながら、医師としてのキャリアを継続できる支援です。

「女性臨床医師支援」、及び「女性医学研究者支援」の対象者募集は、毎年10月頃を予定しています。ただし、支援開始時期を考慮し、条件、審査を満たした場合は支援期間の途中から開始する場合があります。支援ご希望の方は、事務局へご相談ください。

臨床系医師の短時間勤務制度 臨床系教員の短時間勤務制度

育児や介護等で通常の勤務が困難となった臨床系教員のための支援です。助教以上の臨床系教員で継続的な勤務が困難となった方や、小学6年生までの子の育児を必要とする方を対象としています。1回の申請で1年の取扱いとし、原則3年まで支援を受けることができます。男性医師も支援を受けることが可能です。

医療練士研修生の短時間勤務制度

医療練士研修生(大学院生を除く)の子育て支援です。小学6年生までの子の育児を必要とする方を対象としています。1回の申請で1年の取扱いとし、原則3年まで支援を受けることができます。男性医師も支援を受けることが可能です。

詳細は、女性医師・研究者支援部門のホームページに掲載しております。
<http://www.twmu.ac.jp/w-support/index.html>

活動報告

2016

- 4月1日 (金) 女性医学研究者支援開始 国際環境・熱帯医学 吉井亜希子先生
- 4月18日 (月) ファミリーサポート運営検討会議開催
- 5月14日 (土) 至誠父母会「女性医師研究者支援基金」案内
- 5月19日 (木) ファミリーサポート運営検討会議開催
- 6月4日 (土) 女性医師支援シンポジウム開催
- 7月8日 (金) ファミリーサポート運営検討会議開催
- 7月12日 (火) 女性医師・研究者支援 平成28年度支援者辞令交付
- 8月18日 (木) ファミリーサポート運営検討会議開催
- 9月5日 (月) 第20回女性医師・研究者支援センター運営委員会開催
- 9月23日 (金) ファミリーサポート運営検討会議開催
- 10月1日 (土) 平成29年度女性医学研究者支援 公募開始
- 10月27日 (木) ファミリーサポート運営検討会議開催
- 11月1日 (火) 女性医学研究者支援開始 生理学(第一)講座 木内有希先生
- 12月6日 (火) ファミリーサポート運営検討会議開催
- 12月22日 (木) 女性医師・研究者支援 平成28年度支援者辞令交付

2017

- 1月1日 (日) 女性医師・研究者支援部門に名称変更
- 1月25日 (水) 平成29年度女性医師研究者支援 2名採用内定
- 2月6日 (月) ファミリーサポート運営検討会議開催
- 2月15日 (水) 第21回女性医師・研究者部門運営会議開催
- 3月16日 (木) 順天堂大学・東京医科歯科大学来訪
- 3月23日 (木) ファミリーサポート運営検討会議開催



～環境に応じたタイムマネジメント～ を終えて

(平成28年6月4日)

6月4日(土) 弥生記念講堂において、女性医師・研究者支援センター主催、総合研究所共催による女性医師支援シンポジウム2016が開催されました。シンポジウムの第1部では、研究支援を受けた女性医師による研究成果発表、医学部4年生による研究プロジェクト報告、第2部では、「タイムマネジメントの重要性～時間の使い方を考えるきっかけを作る～」と題し、有限責任監査法人トーマツ・シニアマネジャー吉岡拓也氏の講演が行われました。シンポジウムには学内外から総勢133名の皆様にご参加をいただき、大変盛況のうちに終了することができました。ご参加いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

宮原敏基金・女性臨床医師支援を受けた女性医師による研究成果発表では、眼科准講師・小暮朗子氏(座長:高村悦子眼科臨床教授)が、これまでのキャリアや支援を受けるに至った背景などを織り交ぜ、ご自身の研究について報告されました。本シンポジウムは、平成25年度から医学部4年生の人間関係教育の授業の一環として開催しており、今年度は初めての試みとして、4名の学生による研究プロジェクトについて報告がありました。アンケートでは、「同級生の発表が良い刺激になった。女性の先生の発表もタイムリーに女性の先生が子育てをしながらどんな研究を行っているか知ることができてよかった」、「自分の研究内容以外の研究を聞くことができ、とても新鮮でした」といった感想が寄せられました。

吉岡拓也氏による講演「タイムマネジメントの重要性～時間の使い方を考えるきっかけを作る～」(座長:岡田みどり化学教室教授)は、ご自身の経験をふまえたタイムマネジメントの必要性・実践について、笑いを織り交ぜながら楽しく進めていただきました。その中で、参加者が自分自身の24時間を振り返るために、24時間の使い方を円グラフで表すという作業がありましたが、この簡単な作業によって、いかに自分の時間の使い方にロスがあるのか、本当にしたいことが行えていないのかなど、多くの振り返りにつながり驚かされました。また、日常生活において、重要度に関係なく緊急性のあるものは手をつけ易いが、重要であるにも関わらず緊急性の低いことは兎角後回しになってしまうこと、そして、この後回しになっていることの中に本当は自分が大切にしていたものが隠れているということを指摘され、会場中は納得の表情となりました。

今回のシンポジウムで、参加者は改めて自分の時間の使い方を見直すことができ、大変有意義な時間になったことと思います。これからも、楽しく発見のあるシンポジウムを企画していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

業績一覧

部門運営委員

論文発表

著者名	タイトル	誌名
斎藤加代子他	女性医師のキャリアと働きやすさ	DOCTOR'S CAREER Monthly 2014.10:4-5
寺野彰,山本繭子,片桐由起子,大久保ゆかり,齋藤加代子,沖永寛子,住山嘉伸,小栗典明	女性医師キャリアアップ支援について	日本私立医科大学協会 医学振興 第80号6-27
野原理子	企業と連携した医療機関勤務環境の改善策	労働の科学, 71(5),296-299,2016
豊田百合子,野原理子,大久保由美子,吉岡俊正	育児中の女性医師が求めるキャリア形成のための支援	東京女子医科大学雑誌,86(3):87-93,2016
久米美代子,瀬戸愛子,近藤絢弓,野原理子,久保正子,黒岩美幸,石川徳子	訪問看護師の倫理的ジレンマを通してみた在宅看護問題とその後方支援	日本ウーマンズヘルス学会誌 (1347-5894);15(1),63-72,2016
久保正子,久米美代子,野原理子,瀬戸愛子,近藤絢弓,黒岩美幸,石川徳子	訪問看護師が経験する倫理的課題とジレンマの文献的考察	日本ウーマンズヘルス学会誌 (1347-5894);15(2),49-54,2017
野原理子	2 働く女性の健康管理と女性外来のあり方	丸山総一郎編,働く女性のストレスとメンタルヘルスケア,創元社,2017

学会発表

演者	形式	区分	研究会・学会名	タイトル	開催場所	年月日
肥塚直美	受賞講演	口演	第89回日本内分泌学会学術総会	成長・老化にかかわる下垂体機能異常に関する研究と女性医師キャリア形成支援	京都	2016.4.23
肥塚直美	シンポジウム	口演	第89回日本内分泌学会学術総会	女性医師専門育成・再教育委員会 (JES We Can) の歩み	京都	2016.4.23
野原理子	シンポジウム	口演	第89回日本産業衛生学会	日本産業衛生学会の使命-女性を登用するための具体的提案-	福島	2016.5.27
上村真央,宇賀美杉,稲垣彩音,矢野由香子,柳田かおり,中尾千恵,岡田みどり,矢口有乃,齋藤加代子	学生セッション	ポスター	第48回医学教育学会大会	女子医大生の指導による医療的スキル、救急蘇生法体験が女子中高生の理系進路、医療系職業選択に与える影響	大阪	2016.7.29
竹宮孝子,川上万留実,前知子,前昌宏,蓮沼直子,木村友美,岡田みどり,齋藤加代子	一般講演	口演	第48回日本医学教育学会大会	医学生へのWork Life Balanceに対するキャリア教育	大阪	2016.7.30
竹宮孝子,川上万留実,蓮沼直子,伊東昌子,山本明美,岡田みどり,齋藤加代子	一般講演	口演	第48回日本医学教育学会大会	医学生へのWork Life Balance意識調査～母親の影響～	大阪	2016.7.30
岡田みどり,中村祐子,佐藤梓,岡谷理恵子,吉田珠子,内田啓子,齋藤加代子	一般講演	ポスター	日本薬学会第137年会	女子中高生の医療系進路選択を支援する取り組みにおける病院見学プログラム	仙台	2017.3.26

その他

氏名	機関	名称
斎藤加代子・竹宮孝子・野原理子	東京女子医科大学男女共同参画推進局 女性医師・研究者支援センター、 人間関係教育	女性医師支援シンポジウム2016 ～環境に応じたタイムマネジメント～2016.6.4
斎藤加代子	全国自治体病院協議会	事務局長養成研修会「医療機関の女性医師支援について」講演, 東京,2016. 7.29
斎藤加代子・竹宮孝子・野原理子	東京女子医科大学 女性医師・研究者支援センター	Annual report 2016 spring ごあいさつ
斎藤加代子	平成28年度事務局長養成研修会プログラム	「医療機関の女性医師支援について 東京女子医科大学における女性医師支援」
斎藤加代子	順天堂大学	第6回順天堂大学女性研究者研究活動支援シンポジウム 「東京女子医科大学の女性医療人キャリア形成について -医学の蘊奥を究め、人格を陶冶し、社会に貢献する女性医療人の育成」 基調講演,東京,2017.1.21
岡田みどり	科学技術振興機構	平成28年度 女子中高生の理系進路選択支援プログラム 成果報告会,東京, 2017/2/5

支援を受けた女性研究者

論文発表

著者名	タイトル	誌名
Matsushita N, Osaka T, Haruta I, Ueshiba H, Yanagisawa N, Omori-Miyake M, Hashimoto E, Shibata N, Tokushige K, Saito K, Tsuneda S, Yagi J.	Effect of Lipopolysaccharide on the Progression of Non-Alcoholic Fatty Liver Disease in High Caloric Diet-Fed Mice.	Scand J Immunol. 2016 Feb;83(2):109-18
Chishima S, Kogiso T, Matsushita N, Hashimoto E, Tokushige K.	The Relationship between the Growth Hormone/Insulin-like Growth Factor System and the Histological Features of Nonalcoholic Fatty Liver Disease.	Intern Med. 2017;56(5):473-480.
Yuichi Takeuchi, Hironobu Osaki, Yuki Yagasaki, Yoko Katayama and Mariko Miyata	Afferent Fiber Remodeling in the Somatosensory Thalamus of Mice as a Neural Basis of Somatotopic Reorganization in the Brain and Ectopic Mechanical Hypersensitivity after Peripheral Sensory Nerve Injury	eNeuro 23 March 2017, 4 (2) ENEURO.0345-16.2017; DOI: https://doi.org/10.1523/ENEURO.0345-16.2017

学会発表

演者	形式	区分	研究会・学会名	タイトル	開催場所	年月日
Akiko Yoshii, Francis Hombhanje, Takahiro Tsukahara	一般講演	ポスター	International congress for Tropical medicine and Malaria 2016	Examining health worker's adherence to prescribing Artemether-lumefantrine following a new national malaria treatment protocol in Papua New Guinea	オーストラリア	2016.9.18-22

短時間勤務支援を受けた女性医師・研究者の紹介

平成28年度の支援者は2名。医師・研究者でありながら、母となったことをきっかけに仕事と子育ての両立を前向きに捉え、支援を受けながら医師・研究者としてのキャリアを継続することを選択されました。二人の先生のさまざまなチャレンジが多くの方々の心に響き、励ましとなることを期待しています。



国際環境・熱帯医学教室
吉井亜希子
Akiko Yoshii



profile

学歴
平成20年 東京女子医科大学卒業

職歴

平成20年 4月 東京女子医科大学病院 研修医
平成22年 4月 東京女子医科大学病院 小児科
平成25年 12月 小児科専門医取得
平成27年 9月 東京女子医科大学 国際環境・熱帯医学教室 研究生
平成28年 3月 東京女子医科大学 国際環境・熱帯医学教室 助教
平成28年 4月 東京女子医科大学 女性医師・研究者支援部門 特任助教



研究内容

私は大学6年生時のクラークシップでカンボジアへ赴いた際、途上国と日本の医療格差を初めて実感しました。そして特に小さな子供たちが十分な医療を受けることができないという問題に関わりたく強く思うようになりました。卒業後、東京女子医科大学小児科へ入局し臨床経験を積んだ後、改めて国際保健を学びたいという動機から教室を訪ねました。教室では保健医療政策評価の研究が長年行われており、私自身も先生方の指導のもと「パプアニューギニアの三日熱マラリア小児における根治治療の実施評価」という研究課題に取り組む機会を得ました。三日熱マラリアは人間に感染する5つのマラリアのうちの一つであり、パプアニューギニアにおいては年間20万人が発症しその多くは免疫を持たない若年小児です。三日熱マラリアは肝細胞内に休眠体を形成するため急性期治療の後、プリマキン投与による根治治療が必要です。根治治療が行われない場合、患者はくり返し発症し、特に途上国のような慢性栄養失調の小児が多い地域では時に致死的となります。しかし今回の研究では三日熱マラリアと診断された小児の45%しか根治治療に辿り着いておらず、その要因として、主に医療施設まで距離が遠いことが挙げられました。近年の世界におけるマラリア対策強化により、マラリアの診断・治療向上にむけ多くの財政的・人的支援が行われてきました。しかし研究を通じてその対策は未だ不十分であり、地域は様々な問題を抱えていると気づきました。途上国の保健医療システムを向上させるためにはまずその地域における課題を見つけ出し、政策の評価、課題解決に向けた新たな提言を行っていくことが非常に重要であると感じました。今後も研究を続け、自分自身の経験・知識の向上も図れるよう多くの課題にチャレンジしていきたいと考えております。

今後の目標・夢

私はまだ駆け出しの研究者ですが、自分をここまで導いてくださった先生方、仲間、家族への感謝の気持ちを常に忘れず、途上国の子供たちの健康のために、これからも研究を通じさらなる経験と知識を身につけていきたいと思っています。また後輩達が国際保健に少しでも興味を持てるように情報を発信し、教室の発展に貢献していきたいと考えています。

メッセージ

私は子供を出産した後、しばらく医療の現場から離れてしまいました。しかし自分はこれから一体何をしていきたいのだろうと立ち止まって考えた時、やはり昔からの夢であった国際保健の道へ進みたいと強く思いました。そして新たな場所でまた素晴らしい先生方に出会い、さらに女性医師支援を受けるチャンスを得ることができました。後輩の皆さんには目標を失わず、仕事と育児を両立させながらキャリアを積み重ねていける道があるということを是非知って頂きたいです。



第1生理学教室

生理学(第一)講座
木内有希
Yuki Kiuchi

profile

学歴

平成13年 3月 東邦大学 理学部 生物分子科学科 卒業
平成13年 4月 埼玉大学 理工学研究科 分子生物学専攻 博士前期課程 入学
平成15年 3月 埼玉大学 理工学研究科 分子生物学専攻 博士前期課程 修了
平成25年 8月 東京女子医科大学 医学博士(乙)取得

職歴

平成15年 4月 国立精神・神経センター 神経研究所
～18年 3月 (現国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 神経研究所) 疾病研究第三部 流動研究員
平成18年 4月 株式会社 キャンパス
平成18年 9月 東京女子医科大学 医学部 生理学(第一)講座 助手
平成19年 4月 東京女子医科大学 医学部 生理学(第一)講座 助教
平成28年11月 東京女子医科大学 女性医師・研究者支援部門 特任助教

研究内容

私は大学4年生の時に研究生受託制度により、理化学研究所、抗生物質研究室にて研究の道へ足を踏み入れて以来、17年間、ずっと研究に携わってきました。これまでに何度かテーマは変わりましたが、常に自分の報告が何らかの形で医療へ還元される可能性を信じ、研究を行ってきました。現在、生理学(第一)講座で、神経回路の改変・維持機構の解明を目指し研究を行っています。そして、網膜-外側膝状体シナプスにおいて、代謝型グルタミン酸受容体1型(mGluR1)が経験依存的な成熟シナプスの維持機構に必須の分子の一つであることを共著者として報告しました(Neuron 91:1-13 2016)。また、自身のプロジェクトとして、今回、新たに明らかとなった成熟シナプスの維持機構に必須の因子であるmGluR1と、既に先行研究でシナプス維持に必須であると報告されているメチル化CpG結合タンパク質2(MeCP2)との関係性を分子生物学的、組織学析により明らかにしようと研究を進めているところです。MeCP2は進行性の発達障害であるレット症候群の原因遺伝子として知られています。レット症候群は乳児期後期に特徴的な退行現象を示すことから、成熟後の神経回路の維持機構の破綻がこの疾患メカニズムと関連することが示唆されています。私の研究が、この疾患の病態理解へと繋がることを期待し、今後も実験を行っていききたいと思います。

今後の目標・夢

自閉症などの発達障害では神経回路の正常な成熟・維持機構が破綻していることが予想されています。私の行っている基礎研究が、いつかこのような疾患の病態解明や治療法の開発へと繋がることを期待して、今後も引き続き研究を継続し、成果を出していきたいです。また、家庭では母として、子供の成長を見守ってまいります。

メッセージ

支援を頂いたことにより、働きながらも子供たちときちんと向き合っていることが出来ていることに感謝しています。また、急に娘の発熱などで帰らなくてはならないことも多く、迷惑をかけているにもかかわらず、寛大な対応やサポートをして下さる教授、ならびにラボメンバーの皆さんにも感謝しています。これから医師・研究者を目指す方々には、このような支援制度があることを頭の片隅に入れておいて頂きたいです。そして、もし仕事と子育ての両立に悩むときが訪れたら、思い出して頂けたらと思います。

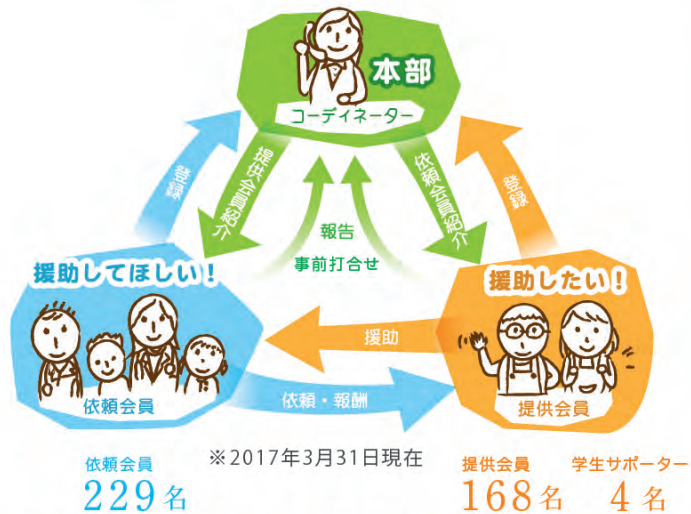


女子医大・東京医大ファミリーサポート



女子医大ファミリーサポートとは、東京女子医科大学の在籍者が仕事と家庭を両立するための一環として、地域の人々から子育て支援を受け、家族の福祉の向上を図ることを目的とした、会員相互の援助活動です。また地域に対して医学的な知識・技術の提供を通して、地域全体の保育能力の向上を図り、地域と医療従事者との協力体制を構築することも目的としています。

2011年度より援助活動を開始し、2014年度からは、東京医科大学の在籍者も依頼会員の登録が可能となり、2016年度から「女子医大・東京医大ファミリーサポート」として事業が継続されています。



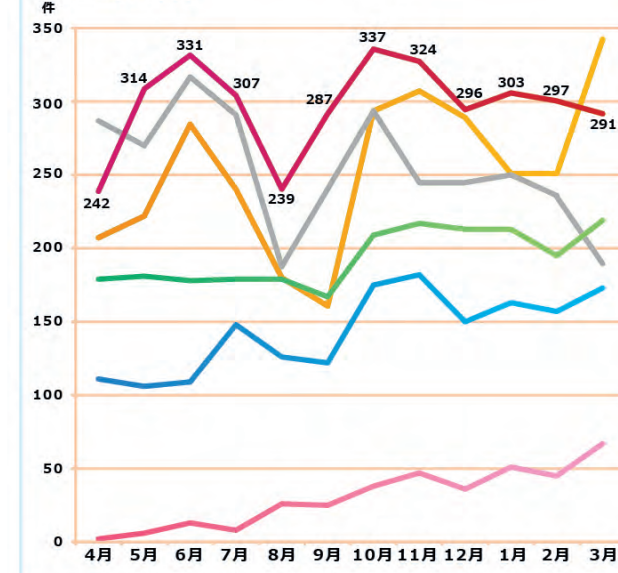
女子医大・東京医大ファミリーサポート

	一時預かり保育	病(後)児保育	お泊り保育
場所	依頼会員の自宅 提供会員の自宅	依頼会員の自宅	提供会員の自宅
対象	生後おおむね 2ヶ月～15歳	1歳～6年生	1年生～6年生
時間	7:00～22:00	8:30～18:00 土日祝日はなし	19:00～7:00
料金	1時間800円 19:00以降900円 (兄弟の2人目 以降は半額)	1時間 1,000円	1泊18,000円 (兄弟の2人目 以降は半額)

活動実績

保育サービス講習会	提供会員になるための基本講習。全30時間を受講し修了証を受けた者が提供会員となる【6月、11月】 全30時間：開校式、保育の心、子どもの心の発達と保育者のかかわり、子どものあそび、事故と安全、身体の発達と病気、障害のある子の預かりについて、普通救命講習、子どもの暮らしとケア、子どもの栄養と食生活、小児看護の基礎知識、保育サービスを提供するために、院内保育所見学、修了式
スキルアップ研修会	提供会員の継続的なスキルアップを図る【8月、2月】 ヒヤリハット事例の検討、ワークショップ
全体交流会	提供会員と依頼会員および登録希望者の交流を図るイベント【10月】 女子医大祭のイベントのひとつとして開催(ポスター展示、手作りスライム、カラフルこま、折り紙など)
その他	ファミサポ通信17、18号発行【5月、10月】 自治体、大学、大学病院、メディアからの取材、シンポジウム、講演会等での発表 女性労働協会主催の全国交流集会・講習会に参加 新宿区ファミリー・サポート・センターとのネットワーク会議

活動件数



2016年度
2015年度
2014年度
2013年度
2012年度
2011年度

活動内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保育園・幼稚園の登園前の預かりと送り	29	41	49	40	33	41	45	40	43	49	52	49	511
保育園・幼稚園の送り	20	29	30	34	25	23	30	24	25	19	30	22	311
保育園・幼稚園の迎え	9	11	19	12	18	21	25	36	18	27	21	23	240
保育園・幼稚園の迎えと帰宅後の預かり	44	57	72	57	42	55	53	63	50	64	52	75	684
保育園等の入所前の預かり	18	17	24	32	21	40	52	40	39	33	24	21	361
登校前の預かりと送り	16	18	18	20			14	22	16	20	24	20	212
学校の送り													0
学校の迎え		1	1										2
下校後の預かり	18	23	27	19	6	15	17	18	4	4	3	3	157
学校から学童保育への送り		10	4										14
学童保育の迎え	9	8	8	8	6	8	7	6	3	3		1	67
学童保育から帰宅後の預かり													0
保育園・幼稚園・学校等のお休み時の預かり	13	11	6	16	28	3	9	13	10	8	2	13	132
子どもの習い事・塾等の送迎	60	66	49	42	38	47	59	46	52	58	69	50	636
保護者の臨時的就労の場合の預かり	2	7	7	7	7	5	6	2	10	6	9	4	72
保護者の学会・研修会参加時の預かり					4								4
保護者の外出時(冠婚葬祭・リフレッシュ等)の預かり		2		3	2	4	6	1	4	6	5		33
他の子どもの学校行事・通院時の預かり	1	6	6	6		5		2	7			4	37
保護者の病気時の預かり(出産前後等も含む)				1									2
病児・病後児保育	2	6	11	7	6	6	4	14	7	1	7	1	72
その他	1	1		3	3		2	3	4	1	3		21
合計	242	314	331	307	239	287	337	324	296	303	297	291	3568



院内保育所とファミリーサポート室が連携し、
充実した保育体制を整備しています。

院内保育所

	昼間保育	延長保育	夜間保育	休日保育	病児保育
対象	2ヶ月～就学前の待機児				原則、3ヶ月～就学前
時間	7:30-18:30	18:30-20:00	20:00-7:30	7:30-18:30	8:00-18:00
料金 (1時間)	200円 2年目以降300円	300円 2年目以降350円	400円	300円 2年目以降350円	500円

年間行事

- 5月 誕生日会、避難訓練
- 6月 誕生日会、避難訓練
- 7月 誕生日会、避難訓練、たなばた
- 8月 プール遊び、避難訓練
- 9月 誕生日会、避難訓練、秋のミニ遠足
- 10月 避難訓練、バザー、ハロウィン
- 11月 誕生日会、避難訓練
- 12月 誕生日会、避難訓練、クリスマス会
- 1月 誕生日会、避難訓練
- 2月 誕生日会、避難訓練、節分
- 3月 誕生日会、避難訓練、ひなまつり

研修

- 7月 第20回医療保育学会(岡山県):参加者2名
第25回病児保育全国大会(新潟県):参加者3名
知っておきたい子どものBLS:参加者12名
- 8月 認可外保育施設職員テーマ別研修会:参加者5名
- 8月 認可外保育施設職員テーマ別研修会:参加者3名
- 11月 大学合同防災訓練:参加者3名
認可外保育施設職員テーマ研修会:参加者2名
- 12月 知っておきたい子どものBLS:参加者12名
認可外保育施設職員テーマ研修会:参加者6名



その他

- 保育所だより発行(毎月)

2016年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
昼間保育	261	239	266	264	209	305	313	335	275	300	309	336
延長保育	55	40	40	37	27	33	37	28	24	31	25	36
夜間保育	48	46	5	48	34	45	56	34	28	28	23	34
休日保育	8	8	4	6	8	13	19	13	7	3	6	2
病児保育	29	22	32	35	33	26	17	16	21	13	16	18

女性医師研究者支援事業基金につきまして、多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。
これからの社会において多くの女性医療者たちが活躍できるよう、深いご理解とご関心をお寄せくださる皆様から賜りましたご芳志に深謝するとともに重ねて心からお礼申し上げます。

● ご寄付合計金額 **56,010,000円** (2016年12月末現在)

● ご芳名一覧(五十音順) 2016年4月から2016年12月末まで

- 志村 昭 様 匿名4名

この度、2017年1月より女性医師研究者支援事業基金から「女性医療人キャリア形成センター基金」に名称を変更いたしました。
今後とも何卒ご支援とご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

募集要項

- 目的・・・女性医療人の勤務継続支援および医療人としてのキャリア形成とリーダーシップ育成を行うための経費
- 目標額・・・3億円
- 対象・・・法人:1口の金額を特に定めておりません
個人:1口2万円(多数のご支援をいただけますと幸いです。)

*申込方法、振込方法、免税措置(企業等法人、個人)など、寄付に関する詳細につきましては、下記までお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

東京女子医科大学 女性医療人キャリア形成センター

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1

TEL:03-3353-8112(内線:41382) FAX:03-3353-6793

E-mail:w-support.bm@twmu.ac.jp http://www.twmu.ac.jp/w-support/